

ひろしん

森の学校

広島地区第1期活動報告
(2005年～2014年)

● 森を育む

● 人を育む

● 森で遊ぶ



特定非営利活動法人ひろしま自然学校

はじめに

ろうきん森の学校広島地区が北広島町今吉田地区に開設されて10年になりました。まったく施設のなかった林野が環境教育の森の拠点として整備され、自然を活用した参加型の教育プログラムが数多く実施されています。

森の学校の環境は県内でもっともありふれたアカマツ二次林で、万代池というため池があります。広島はため池の数が全国で4番目、ため池のある森の学校は広島らしい自然があるといえます。

もう一つの広島らしさは、中世のたたら製鉄の遺構が残っていることです。人々が山を削り砂鉄を得て、森を炭に変えて砂鉄を鉄に仕上げたのです。鋤や鍬など生活に必要な品物を作り利用しました。

身近で見慣れて一見興味のわからない環境で、森の学校の目的である「森を育む 人を育む 森で遊ぶ」をどう実現するか考えた時に、この場所には広島らしさと歴史があることに気づきます。この特徴を活かした森づくりをベースに、さまざまな自然体験や環境教育の実験的なプログラム開発の場として10年間活動を進めてきました。

そのささやかな取組の足跡をここに記録し、これまで森の学校にかかわり、支えてくださったみなさまとわかちあいたいと思います。

10年間、森の学校の活動を支援いただいた地元のみなさま、地主のみなさま、中国労働金庫や広島県労働者福祉協議会をはじめとした関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

特定非営利活動法人ひろしま自然学校

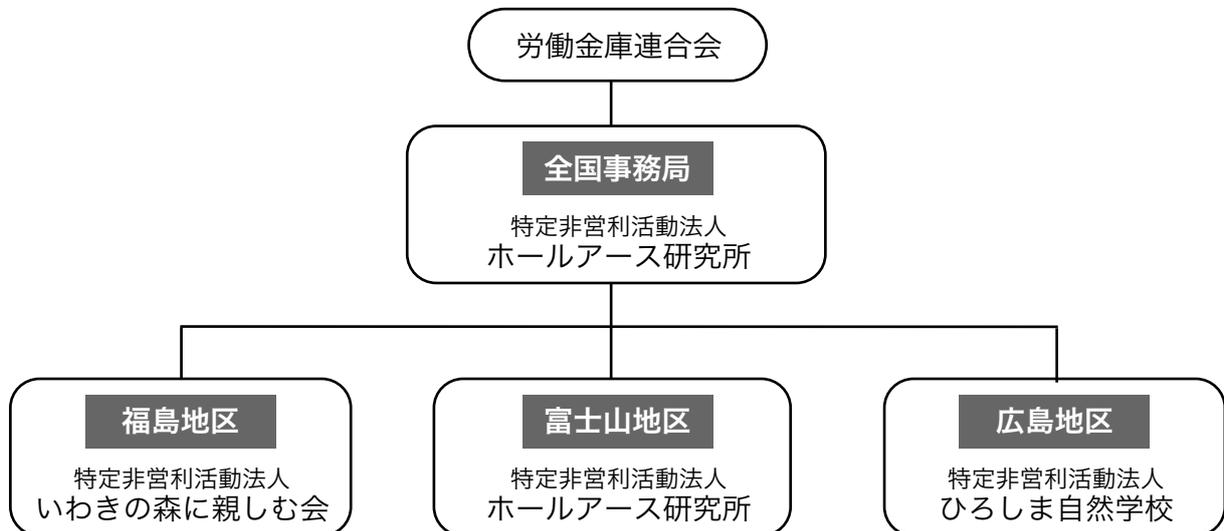
目 次

I	プロローグ ろうきん森の学校広島地区の概要.....	1
	1 基本構想.....	1
	2 基本方針.....	1
	3 対象地の概要.....	2
II	10年間の活動実績.....	3
	森を育む 平日隊を中心に5,095人が参加.....	4
	1 基礎インフラの整備実績.....	5
	■看板の設置.....	5
	■トイレ.....	5
	■作業小屋.....	5
	■研修棟（こぞってハウス）.....	5
	■石窯・炊飯場・シンク.....	6
	■焚き火場.....	6
	■ビオトープ・たたら遺構看板.....	6
	2 散策路の整備実績.....	7
	3 森林の整備実績.....	7
	4 動植物調査実績.....	8
	人を育む OJT型人材育成の仕組みが定着.....	9
	1 人材育成の実績.....	10
	森で遊ぶ 幼児から大人まで多彩なプログラムを開発！.....	11
	1 プログラム開発・実践の実績.....	12
	■森の妖精くらぶ.....	12
	■わくわく探検隊.....	12
	■夏の分校1/2ヶ月.....	13

■アースキーパー.....	13
■小麦プロジェクト.....	14
■森のカフェ.....	14
■森の学校フェスティバル・森のふれあいコンサート.....	15
■地元との連事業.....	15
■企業研修.....	16
III エピローグ ろうきん森の学校広島地区のこれから.....	17

Ⅰ プロローグ ろうきん森の学校広島地区の概要

ろうきん森の学校広島地区は、労働金庫連合会の設立50周年を記念した社会貢献事業として、2005年～2014年の10年間、全国3地区で展開することになった森の学校事業の一つで、特定非営利活動法人ひろしま自然学校が受託運営をしてきました。



1. 基本構想 (労働金庫連合会資料から抜粋)

無秩序な経済活動や人口の増加などにより、気象の異常、森林や生態系の破壊などが起こり、「人々が喜びを持って共生」するための大前提となるべき地球環境が脅かされています。労働金庫連合会は、「ろうきんの理念」に謳う経済・福祉・環境・文化の四分野のうち、勤労者の生活に密着した金庫活動領域の基礎条件をなす「環境」分野を主たるテーマとして50周年記念社会貢献活動を展開します。

さらに「環境」分野の中でも

- ① 厳しい環境の中で働く勤労者に精神的な安らぎを与える「緑」
- ② 身体を動かす喜びと「健康の維持」
- ③ 「地球環境保全」への共感と参画

の3点をコンセプトに事業を行うものとします。

以上のコンセプトに従い、幅広い人々が参加できる「里山再生」活動を「環境教育」に主眼を置いて行います。また、本記念活動終了後も幅広い分野で環境問題の解決に取り組む「人づくり」を主眼に置いた「森の学校」づくりをめざします。

2. 基本方針

基本構想を実現するため、以下の6つの基本方針を策定し活動を推進します。

(1) 地球温暖化防止への取り組み

荒廃した森林を整備することにより、また参加者自身の意識改革を通じて、複合的に地球環境保全に貢献する。

(2)多様な自然の回復

荒廃した山林の整備を通じて、地域の森林の持つ多様性を取り戻し、地域の自然を再生する。

(3)里山を活かした暮らしの提案・発信

昔から地域が脈々と受け継いできた里山の暮らしを見直し、誰でも参加できる体験プログラムを行うことにより「循環型地域モデル」を発信する。

(4)森づくりから始める人づくり

多様な森づくりの活動に関わることにより、健康の維持とともに精神的な安らぎを得、豊かな心を育む。また、里山管理の技術に留まらない、環境教育的視点を持った人材の育成を行う。

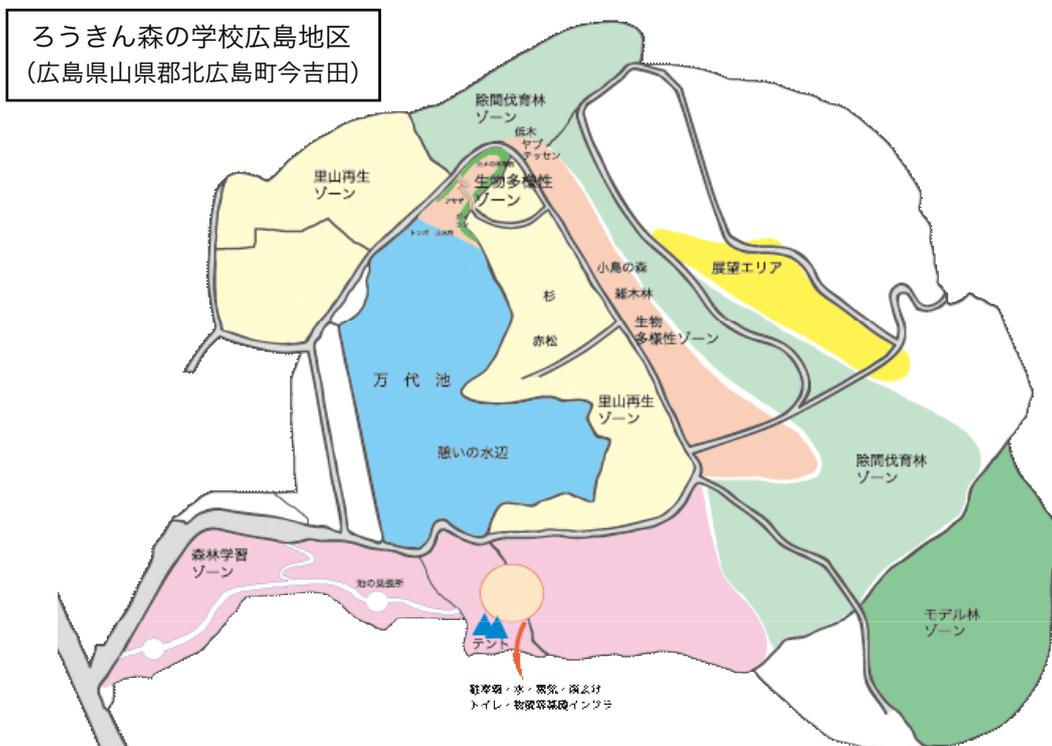
(5)地域全体での取り組み

現地事業者が核となって、地域住民・行政・企業と協働・連携しながら、事業をすすめる。

(6)自律した運営

現地事業者が主体性を持って継続的に取り組んでいけるような働きかけと、しくみづくりを行う。

3. 対象地の概要



万代池及びその周辺の里山（約10ha）が対象地。クリ、コナラを中心とした雑木林、アカマツ林、スギ・ヒノキの人工林からなる。中国地方に見られるごく一般的な里山であるが、長い間放置された状態で荒廃地となっている。また、対象地内には、中世たたら製鉄の遺構が数多く残っており、昔の中国山地の文化や生活を垣間見ることができる。整備の方向性として、対象地をゾーニングし計画的な整備に取り組んだ。

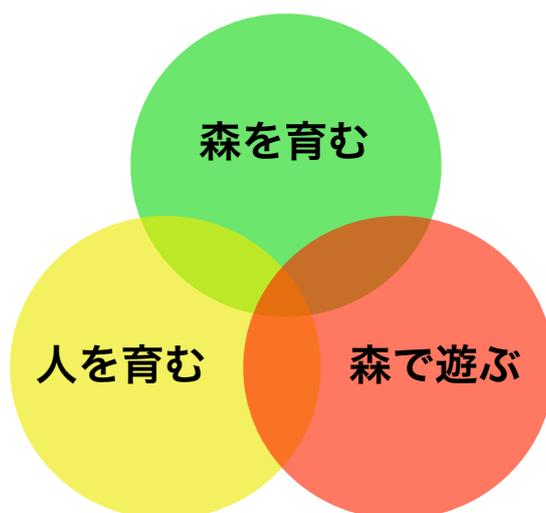
- 里山再生ゾーン：アカマツを中心とした里山としての整備をすすめる
- 生物多様性ゾーン：クリなどの実のなる木を中心に整備し、小動物が棲めるようにする
- 森林学習ゾーン：里山の森林学習を推進するフィールドに整備する
- 除間伐育林ゾーン：植林されたスギ、ヒノキの除間伐を行い、針広混交林のモデル林をつくる

II 10年間の活動実績

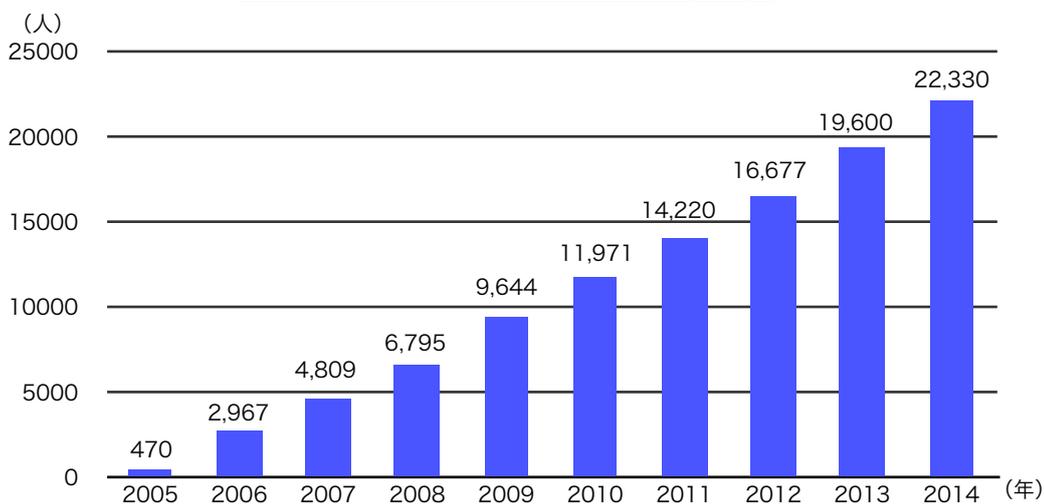
ろうきん森の学校広島地区では、労働金庫連合会が示した6つの基本方針を実現するため、「森を育む」「人を育む」「森で遊ぶ」の3つのキーワードで活動を展開してきました。

活動開始当初は基礎インフラの整備等に時間を費やしたため、利用者数が伸びませんでした。5年目以降は毎年2,500人前後の利用者数で安定し、10年間で延べ22,330人の利用がありました。

【活動の3つのキーワード】



ろうきん森の学校広島地区利用者数（累計）



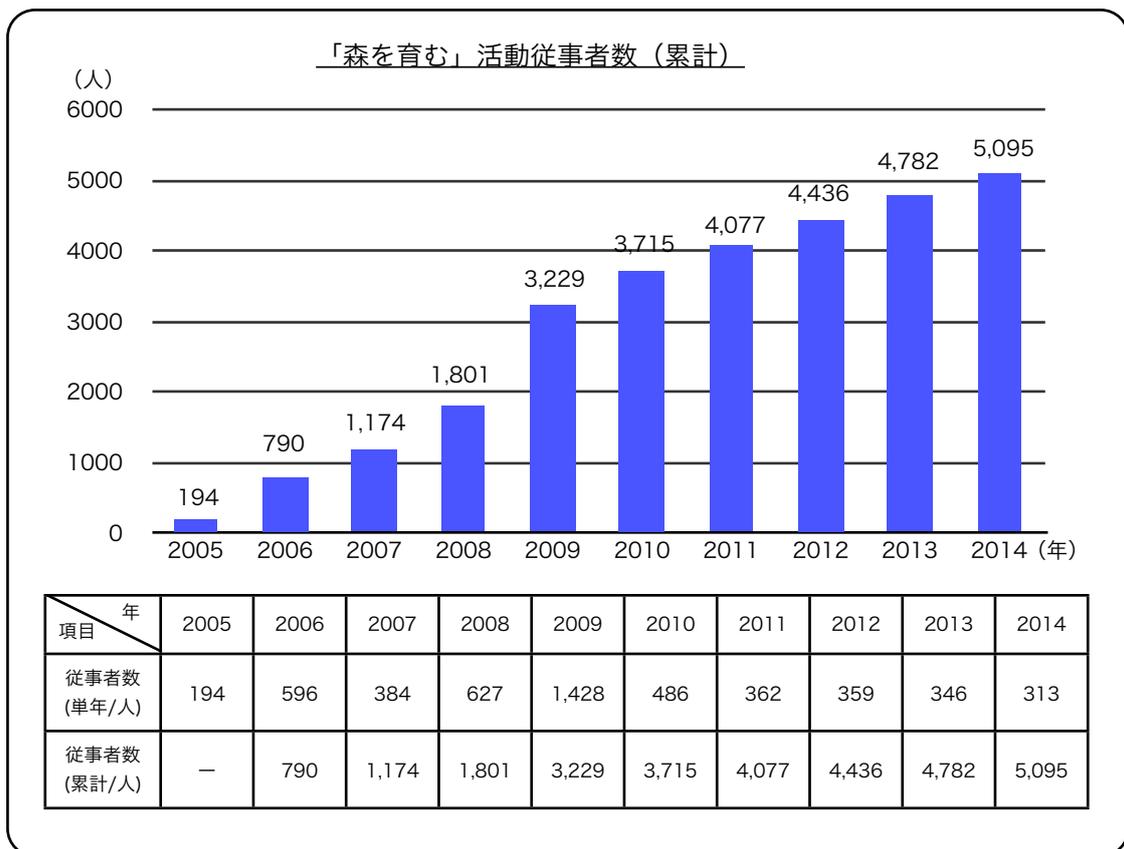
年 項目	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
利用者数 (単年/人)	470	2,497	1,842	1,986	2,849	2,327	2,249	2,457	2,923	2,730
利用者数 (累計/人)	—	2,967	4,809	6,795	9,644	11,971	14,220	16,677	19,600	22,330

森を 育む

平日作業隊を中心に延べ5,095人が参加！

広島地区の活動は、基礎インフラが全くない荒廃した森林を地主から借り受けてスタートしました。このため、活動の初期段階では、水道、電気、施設整備などのインフラ整備に多くの時間をかける必要でした。

活動開始後3年目頃から、次第に森の整備、散策道づくりなどに力を注ぐことができるようになりましたが、これらの作業の多くの部分を担ったのが「平日作業隊」と呼ばれる定年退職者の作業グループです。平日作業隊は、毎週木曜日に作業を行っていますが、1回あたりの従事者は5～6人と少人数です。動植物の愛好家を中心に、午前中に作業を行い、午後は自然観察や動植物調査などを主に担ってきました。10年間で延べ5,095人が「森を育む」活動に従事し、今では見違えるほど整備された森になっています。



1 基礎インフラの整備実績

メイン看板の設置、物置小屋（プレハブ1棟）、道具小屋1棟、作業小屋1棟、研修施設1棟、トイレ3棟、井戸、合併浄化槽、シンク、石窯、炊事場、焚き火場、ビオトープ、たたら遺構解説板 など

■看板の設置



■トイレ.....



■作業小屋



■研修棟（こぞってハウス）.....



■石窯・炊飯場・シンク



■焚き火場



■ビオトープ、たたら遺構看板



2 散策路の整備実績

総延長約5.5km

万代池周回コース：1km、展望エリアコース：2km、森林学習ゾーンコース：2km、
里山再生ゾーンコース：0.5km



3 森林の整備実績

総整備面積：約8ha

- 人工林：スギ（50年）→中間木を残して除間伐、ヒノキ（30年）→間伐、枝打ち
- 雑木林：アカマツ・コナラの二次林→枯損木の除去、間伐
- 植 林：約1haにヒノキとケヤキの苗を植え、針広混交林の造林を目指す
※森林整備の一部には、広島県の環境税を整備費として充当



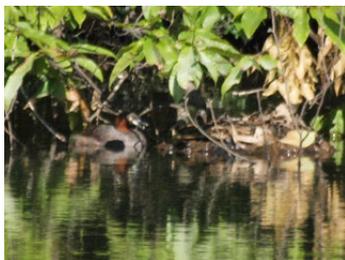
4 動植物調査実績

調査実績

■動物：哺乳類12種、鳥類62種、昆虫881種、は虫類10種、両生類7種、クモ類33種

■植物：木本52種、草本363種、シダ類48種

※調査の詳細は、別冊「生き物暦 ろうきん森の学校広島」を参照



OJT型人材育成のしくみが定着！

森林整備技術や自然体験活動指導技術の向上を目指して、継続的な人材育成活動に取り組みました。

特に、広島地区の活動の中心となっている子どもの自然体験活動指導者の養成が急務であったため、県内の大学生を対象とした「ユースボランティア養成」に最も力を注いできました。ユースボランティア養成では、毎年春期休業中に2泊3日の集中トレーニングを行い、その後森の学校のプログラムに実際に携わる経験を通して技術の向上を図る「OJT型リーダー養成」が定着し、毎年継続的な人材養成ができています。2014年には、学生の発案により「なちゅらるず」というボランティアの会が発足し、学生に自身による自主研修システムも確立されました。

その他、持続可能な地域づくりを推進するキーパーソンとして「コミュニティ・ワーカー」の養成講座を2010年から定期開催するなど、この10年間で延べ1,910人に対して人材養成研修を実施しました。



1 人材育成の実績

主な人材育成の実績

- ユースボランティア：大学生のボランティアグループの養成。毎年春先に2泊3日の集中トレーニングを行い、その後OJTなどを通じて年間を通して育成。2014年には、大学生のボランティア・サークル「なちゆるらず」が誕生。
- コミュニティ・ワーカー：持続可能な地域づくりのための地域コーディネーションスキルの向上を目指して2010年から継続的に実施。
- 環境学習リーダー：2006年から日本で初めてスタートした地球教育プログラム「アースキーパー」の指導者養成に取り組んだほか、受託等により環境学習リーダーの養成に取り組んだ。
- 森林整備技術：森林整備に必要な草刈機やチェーンソーなどの使用講習会を不定期で開催。
- 大学の実習受入：広島女学院大学の授業として、ボランティア実習や環境学習実習の受け入れを行った。

関連資格取得

- 日本森林技術技能認定協会ランク4：9名
- プロジェクト・ワイルド・エデュケーター：12名
- アースキーパー・トレーナー：26名



幼児から大人まで多彩なプログラムを開発！

里山を活用した自然体験や環境教育・学習プログラムの開発・実践に取り組みました。

幼児とその保護者を対象にした「森の妖精くらぶ」では、毎回森の妖精から子どもたちに手紙が届き、子どもたちは森の妖精と一緒に1日を過ごしました。また、カウンセラーや森林セラピストと連携して保護者との交流にも力を入れました。

小中学生を対象にしたプログラムは、森の学校で最も多彩で充実しています。「わくわく探検隊」では、地元の方が先生となって耕作放棄地での農業体験指導にあたり地元との交流が促進されました。「夏の分校1/2ヶ月」は、森の学校広島地区のもう一つの拠点「地球派塾」を活用して、14泊15日という長期の自然体験プログラムにチャレンジしてきました。今では、毎年全国から100人近い申込みがあり最も人気のあるプログラムとなっています。アメリカで開発された地球教育プログラムの一つ「アースキーパー」の実践は、日本で初めての取組としてこれからの環境教育のあり方に対する代案が提示できたと考えます。

「食」をテーマとした「小麦プロジェクト」は、小麦の生産から消費までのすべてのプロセスを体験し食に対する理解を深める貴重な機会となりました。

広島県労福協、中国労金と連携して行う「森の学校フェスティバル・森のふれあいコンサート」は、毎年500人余りの人が森の学校を訪れる一大イベントとなっています。

最近では毎年2,000人以上のプログラム利用者があり、この10年間の延べ利用者数は15,325人となっています。



1 プログラム開発・実践の実績

主なプログラム実績

森の妖精くらぶ、わくわく探検隊、アースキーパー、小麦プロジェクト、森のカフェ、森の学校フェスティバル・森のふれあいコンサート、地元との連携事業、企業研修など

■森の妖精くらぶ

未就学児童と保護者を対象に森の幼稚園を開催。わらべ唄、森の妖精からの手紙などを駆使して、子どもが夢中に遊ぶ環境とカウンセラーによる保護者の子育て相談を実施。



■わくわく探検隊

小学4年生から6年生を対象にした通年の子どもキャンプ。自然体験、農業体験、環境学習などをベースに年間を通して同じグループで過ごすことで子どもたちのチームづくりを大切にして実施。



■夏の分校1/2ヶ月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

小学4年生から中学3年生を対象にした14泊15日の子どもキャンプ。小学校の廃校を拠点に、「じっくり暮らす・とことん遊ぶ」というコンセプトで、子どもたち自身がキャンプをつくり・運営するしくみで実施。



■アースキーパー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

アメリカで開発された地球教育プログラムの1つで、小学校5年生を対象に3ヶ月間かけて地球について学ぶ。日本ではひろしま自然学校でしか実施されていない貴重なプログラム。



■小麦プロジェクト.....

森の学校周辺の耕作放棄地を借用して、小麦を植える、育てる、収穫する、製粉する、料理して食べるという生産から消費までを体験する食育プロジェクト。



■森のカフェ.....

季節ごとのアウトドア料理を楽しみながら、ゆったりとした1日を過ごす家族向けプログラム。



■森の学校フェスティバル・森のふれあいコンサート・・・・・・・・・・・・・・・・

広島県労福協、中国労働金庫と連携し、年1回森の学校を開放して多くの市民の方に森の学校を知ってもらうためのイベントを開催。



■地元との連携事業・・・・・・・・・・・・・・・・

地元自治会等と連携し、フィールドの一斉草刈り活動、地元イベントへの参加活動などを積極的に実施。



■企業研修

企業や企業の労働組合による職員研修、環境ボランティア活動向けのプログラム開発を行い、積極的な受け入れを推進。



Ⅲ エピローグ ろうきん森の学校広島地区のこれから

労働金庫連合会では、森の学校事業第1期10年間の実績を踏まえ、2015年～2024年までさらに10年間延長して第2期森の学校事業を推進することが決定しました。2015年からは、これまでの福島地区、富士山地区、広島地区に加え、新たに岐阜地区、新潟地区の2地区も参加することとなりました。

広島地区においては、第1期10年間で整備されたフィールドを最大限に活用して、自然体験活動や環境教育・学習活動のさらなる充実を図っていき、運営組織、資金、ノウハウなどの面で自立運営ができるよう、3つの項目を重点課題として取り組んでいきます。

第2期重点課題

【課題1】教育プログラムの拡充

10年間で蓄積してきた自然体験、環境教育・学習プログラムの質的向上を図り、自立した運営ができるようプログラムの商品化を推進するとともに、新たなプログラム開発にチャレンジしていきます。

【課題2】企業との連携の強化

従業員50人以上の企業に対して「ストレスチェック義務化法案」が可決され、企業の従業員に対するストレス対策が求められる時代となっています。このような背景を踏まえ、森の学校の基本構想で謳われている「労働者の精神的安らぎと健康の維持」への貢献を意識した体験プログラムの開発や企業研修、ボランティア活動等の積極的受け入れを行います。

【課題3】シニアボランティアの育成

シニア層のマンパワーを有効活用するため、里山シニア大学（仮称）の開校を目指します。里山シニア大学を通じて、シニア層が里山について学び、興味・関心を持つことで、森の学校のフィールド整備、プログラム運営などに関わってもらえるシニアボランティアの確保に努めます。

ろうきん森の学校広島地区第1期活動報告

発行年月 平成27年5月
発行・編集 特定非営利活動法人ひろしま自然学校

〒733-0001 広島市西区打越町11-8-207
ホームページ：<http://moricafe.sakura.ne.jp>
